

第2回 北大阪急行線延伸検討委員会の指摘事項と対応方針

項目	第2回委員会で出された意見	対応方針	対応時期
第1回委員会の指摘事項と対応について	<ul style="list-style-type: none"> 駅部運用変更による直通案については、この案のみを選択して検討の深度化をすると決めたわけではない。「ただし運行上の制約がある」などとコメントを入れたほうがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> コメントを追加する。 	<ul style="list-style-type: none"> 第3回
ミッションについて	<ul style="list-style-type: none"> 今回の延伸に伴う箕面市における都市開発に関しては、利害が一致するところと対立するところの両方がある。府のマスタープランに即した二つの核づくりということであれば、千里中央にとっては渋滞が少なくなってバスターミナルの混雑も解消され交通環境が改善されると同時にセンターとしての機能が薄れ、客を持っていかれる、という両方があるということをおさえておく必要がある。その意味で千里中央地区の受益ということが明確に表現されていないと感じる。広域的な点では整理されているが千里中央地区におけるプラスの効果の中身がぼやけているという印象を持った。この鉄道によって受益が生じる地域に、将来的にそれなりの負担を求めることが必要になってきた場合に、ここはしっかり議論しておく必要がある。 今の千里中央が抱えている問題は、バスのターミナルの問題だけではなく、タクシー、マイカーの乗り入れ、自転車などが過度に集中している。こうした中で、鉄道の延伸が一定の効果を上げると言えば、それは重要な意味があるのではないかと思う。千里中央としてもアメニティが高まって都市の魅力が高まる 	<ul style="list-style-type: none"> 千里中央地区の受益について記述を追加する。 船場地区、かやの中央と千里中央がリンクして商業・産業の相乗効果を生み出してお互いに発展していくというイメージを持っている。そのような表現に修正する。 	<ul style="list-style-type: none"> 第3回

項目	第2回委員会で出された意見	対応方針	対応時期
	<ul style="list-style-type: none"> 広域行政体としてはバランスの取れたターミナルの形成というのは大切だと思っている。運行計画でも千里中央止まりのものが絶対不可欠であると考えている。効果については、混雑の緩和はプラスの要素だが、商業からみるとマイナスの要素となる。ただマイカーの寄付きが不便となっている千里中央がこれを改善するとプラスとなるかもしれない。また、地価についても混雑を緩和することによって上昇することも考えられ、両者が共存するというようなことを定量的に言えるとよい 意義・必要性の中で、コンパクトなまちづくりということだけではなく、どういった機能を計画しているのかがあり、それに鉄道が必要だということでない、必要性として論理的ではないと感じる。よって、コンパクトなまちづくりの内容についてはもう少し書き込む必要がある。かやの中央の公共交通指向のコンパクトなまちづくりは何なのかをわかりやすく書き、鉄道があったらさらに機能強化されるという書きぶりにした方がよい。「自動車依存からの脱却でコンパクトなまちづくり」ではなく、コンパクトなまちづくりと駅を中心とした土地利用などがあり、それに都市計画や事業計画などの政策的なものが先にあって、初めてできるのではないか、かなり計画論的な話だと思う 	<ul style="list-style-type: none"> 経済的な波及効果も含めて整理を行なう（別途実施の波及効果の検討より）。 土地価格の上昇（定量的効果）、ビルドアップによる床面積の上昇など定性的効果も整理を行う。 意義・必要性の中で、コンパクトなまちづくりに関する記述については、これまでに箕面市が進めてきたまちづくりや、今後の箕面市のまちづくりの考え方も踏まえ、表現を整理する 	<ul style="list-style-type: none"> 第4回以降 第3回
整備計画案の検討深度化について	<ul style="list-style-type: none"> 高架案の場合、高さをかやのさんべい橋に合わせた場合と、高架の高さをぎりぎり低くした場合の建設費とどれぐらいの差があるのかについて、次回委員会で概算工事費を整理して提示する。 河川管理者との協議によっては計画案が覆ることがあり、建設コストにも影響を与えるため、実際に協議に行って具体的に議論するほうがよい。 5.3 各ケースの比較表において、折り返し線の分岐を入れるだけの勾配を設定できるかどうかの可否を入れておいた方がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 交差道路がコントロールポイントとなっているため、大幅に高架高さを低くすることは困難である。その前提で工事費の比較検討を行う。 河川管理者との協議を進める。 比較表に追加する。 	<ul style="list-style-type: none"> 第4回 第3回～ 第3回

項目	第2回委員会が出された意見	対応方針	対応時期
運行サービスについて	<ul style="list-style-type: none"> パターンFは、ピーク時に1時間15本、閑散時1時間に3本の運行となり、これは需給関係から考えるとあまりにも実現性の乏しい内容になるので、逆にラッシュ時間帯は千里中央で座りたい人もいるので折り返し運転して半数乗り入れとし、閑散時は8分ピッチで走らせるという方が現実にあっていると思う 運行パターンには事業者の視点を入れる必要がある。事務局レベルで深めて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 折り返し線を設置しない場合の運行の可能性については、一定の検討ができたため、これまでの半数乗り入れ案（折り返し線設置）全数乗り入れ案、ピーク時半数乗り入れ・昼間時全数乗り入れ案も含め、運行サービス、コスト等の面から比較検討を行う。 鉄道事業者からも助言をいただく。 	<ul style="list-style-type: none"> 第3回
	<ul style="list-style-type: none"> 償還型や受益活用型となっているが、これらは会計分離していない。折り返し線をつくって折り返しをするか、もしくは全数乗り入れをして初期投資を減らすかといっても、結局イニシャルコストにかけるか、ランニングコストにかけるかということのどちらかであって、もし会計分離されていれば、イニシャルコストをかけなくてもランニングコストが上がってくれば、線路使用料を払う能力が落ちるので、結果的には償還が遅れるということになって、そのような比較ができるが、今そこがロジカルになっていないので、いいとこ取りになってしまっている。そこは整理した方がよい。ランニングコストとイニシャルコストとどちらをとった方が社会的便益が高くなるかを整理した方がよい 	<ul style="list-style-type: none"> 比較整理を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 第4回以降
	<ul style="list-style-type: none"> 千里中央行きのバスをゼロにはできないだろう。戦略的な運賃設定も必要かもしれない。ただし、バスと電車でお互いにたたき合ってそれぞれが収益を減らすことは望ましいことではない 	<ul style="list-style-type: none"> 別途検討を行っている公共交通活性化プログラムにおけるバス路線網再編の検討内容を踏まえ、整理を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 第4回
	<ul style="list-style-type: none"> ダイヤ概略検討の前提条件として、「御堂筋線ダイヤに影響を与えない」は「御堂筋線の輸送力に影響を与えない」という表現がいいのではないか。またパターンBでは検討結果がこの前提条件を無視した書き方になっているが、括弧内の「実質的に実施不可能」ということを書けばよいのではないか 	<ul style="list-style-type: none"> 表現を修正する。 	<ul style="list-style-type: none"> 第3回
	<ul style="list-style-type: none"> 利用者感覚として梅田に行くのに450円はあまりリーズナブルではない。一般的な公共交通としての鉄道と比べたときのリーズナブルな運賃をキロあたりどう見たらよいかということを利用者の感覚として押さえておく必要があると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 周辺の鉄道のキロ当たりの料金を整理し、比較検討を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 第3回

項目	第2回委員会が出された意見	対応方針	対応時期
事業制度の考 え方・受益活用 の考え方につい て	<ul style="list-style-type: none"> 何を持って受益とするかの定義によって受益の活用の意味が変わってくる。今の受益は新線に対しての収入という意味でしか捕らえられていないので、もう少し受益の定義について整理する必要があるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業制度と合わせて検討を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 第4回以降